

- 1 課題名 漁業資源・漁場調査と情報提供
- 2 区分 委託, 県単, 国庫補助
- 3 期間 昭和52年～平成27年
- 4 担当 資源海洋部
(安江尚孝・中地良樹・武田保幸・御所豊穂
土居内 龍・小久保友義)

5 目的

我が国周辺海域における漁場環境のモニタリングを行うとともに、漁業資源の適切な保存および合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また、調査結果をもとに、関係漁業者・団体に情報提供を行う。

6 成果の要約

1) 試験方法

図1に示す主な調査漁協で、生物情報収集調査(マイワシ, カタクチイワシ, ウルメイワシ, マサバ, ゴマサバ, マアジ, マダイ, ヒラメ, トラフグ, サワラ, ムロアジ類, タチウオ, イサキ)を行うとともに、海洋観測調査(卵稚仔調査含む)を実施した。

2) 成果の概要

(1) マイワシ, カタクチイワシ, ウルメイワシ, マサバ, ゴマサバ, マアジ, マダイ, ヒラメ, トラフグ, サワラ, ムロアジ類, タチウオおよびイサキについて、漁獲統計と生物測定データなどが継続収集された。

(2) 海洋観測データが継続収集された。結果は本誌の資

料に掲げた。

(3) 調査結果は、独立行政法人水産総合研究センター、各都道府県水産試験場および社団法人漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム(FRESCO)によりオンラインデータベース化された。

(4) 水産庁と独立行政法人水産総合研究センターが、生物情報収集調査のうち主要魚種(マイワシ, カタクチイワシ, ウルメイワシ, マサバ, ゴマサバ, マアジ, マダイ, ヒラメ, トラフグ, サワラ)について、その「資源評価表」を策定し公表した。

(5) ムロアジ類, タチウオおよびイサキは、資源動向についてとりまとめ、独立行政法人水産総合研究センターに報告した。

7 成果の取り扱い

1) 成果の普及

主要魚種の資源評価については、水産庁と(独)水産総合研究センターによって公表された。和歌山県に関連する情報については、漁海況情報やカタクチイワシ産卵情報などを通じて関係漁業者・団体に提供された。

2) 成果の発表

第41回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議; 平成22年度太平洋イワシ, アジ, サバ等長期漁海況予報会議; 卵・稚仔, プランクトン調査研究担当協議会; 平成22年度中央ブロック資源・海洋研究会

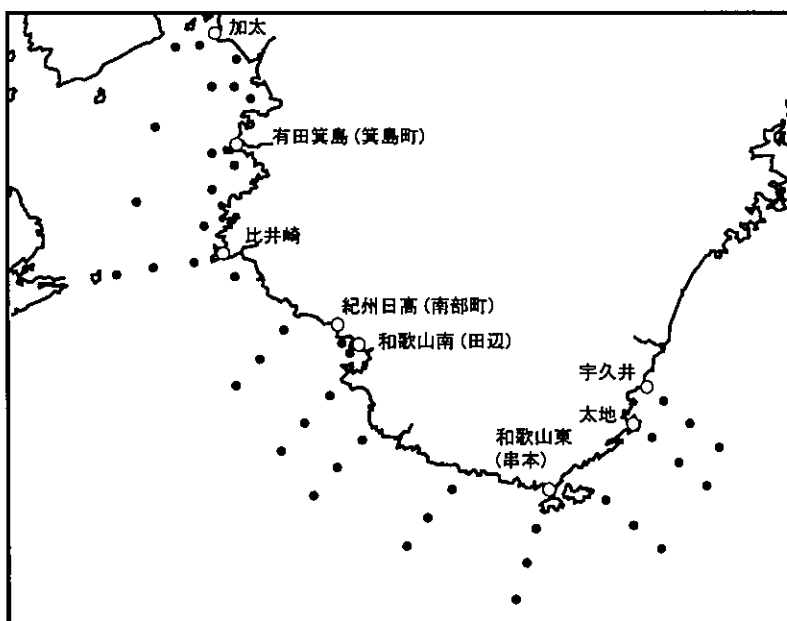


図1 主な調査漁協 (○) と海洋観測調査定点 (●)